

議已存為事南人民保陸、口實之等若干ノ
 負上陸志ムコトヲ妨ム 函達 格會ノ邊
 七行コトニ付、事スル
 右由訓又、高直徑者ノ上ニ、之ノ同艦考ニ付、
 辛巳年、所、常、在、五、
 海軍省
 厦門
 松永龍長

海軍四七

明治卅三年八月廿九

西

赤

巨

水

正

濟

十六

別紙海軍大臣請議軍艦用甲鐵板及砲楯
 用鋼板製造所設立ノ件、理由書ニ記載ノ
 如ク軍備上必要ノ儀ト認メラレ大藏大臣トス

協議済ノ旨ニ付議議ノ通法定相成並ニシ
 追テ本件ニ要スル費途ハ海軍省既定繼續
 費(海軍費)ヨリ百八拾六萬餘圓ヲ流用シ残額四百
 四拾貳萬餘圓ノ内三百七拾七萬餘圓ハ廿七八年款
 後後日本郵船會社ハ大坂高船會社ハ拂下シ
 院船ノ代價ヲ以テ之ニ充テ尚殘額六拾五萬餘圓
 一般ノ財源ヲ以テ支辨ノ計畫ニ付保セテ閣議
 決定相成並ニシ

拾 各 案

甲鐵板製造所設五ノ件請議ノ
 通

明治三十二年九月十一日

大藏省、出際

全日

海軍機密第二四九號

甲鐵板製造所設置三件

軍艦用甲鐵板製造所、砲橋用鐵板製造所、設置三件、同下、急務に於て、認り別紙、理由及方案、其基、其海軍造兵廠内、之カ工場ヲ設備シ、軍備上、需安、之ヲセシメントス、茲ニ大藏大臣ト協議シ、盡シ、例議、提出ス

明治三十三年八月廿九日

海軍大臣山本権兵衛



内閣總理大臣後身山縣有朋殿

近々本議ハ大暮各品減價ニシテ曰者
 於此上尚者既定繼續費又流用ノ百八
 於六萬餘圓ヲ除キ餘額四百四拾五萬
 餘圓ノ内三百七拾七萬餘圓ハ明治二十
 七年戰役後政府ヨリ日本郵船株式
 會社及大坂高船株式會社一押下
 汽船十隻又代價シ以テ之ニ充テ尚餘額
 六拾五萬餘圓ハ一般財源ツ以テ支
 辨、計畫ナリ本議ハ併ヤ閣議ノ決
 定ハ請ヒ度也付中係中係也

山口

軍艦用甲鐵板及砲楯用鋼板ノ製造ハ海軍既定
 計畫ニ屬スル事業ニ必隨並行スヘキモノニシ
 テ特ニ軍艦水雷艇補充基金ノ制規ニ設ケラレ
 補充軍艦ハ三十七年度以降着々之カ製造ニ着
 手スヘキノ計畫アル今日ニ於テ我邦ニ甲鐵板
 製造所ノ設置ナキトキハ軍艦及兵器製造上ノ
 主要材料タル甲鐵板及鋼板ハ總テ海外ヨリ購
 入セザル可カラス然ルニ甲鐵板及砲楯用鋼板
 ハ何レモ戰時禁制品ナルヲ以テ有事ノ際ハ之
 ヲ輸入スルコト能ハス又平時ニ在テハ輸入ハ
 自由ナルモ元來是等甲鐵板ノ製造法タルヤ艦
 体ノ形状及ヒ其彎曲ニ應シ製作ヲ要スルモノ

ナレハ圖面ヲ以テ其形狀彎曲等ヲ表示スルコト甚タ困難ナリ英國ノ如キハ艦體製造工事ノ進行ニ伴ヒ逐一其模型ヲ作り之ヲ甲鐵板製造會社ニ送致シ以テ之ヲ製造セシムルヲ例トス今本邦ニ於テ装甲艦ヲ製造センニ艦體製造工事ノ進行ニ伴ヒ逐一甲鐵板ノ模型ヲ作り之ヲ海外ニ送致シ以テ甲鐵板ヲ製造セシムルトキハ幣ニ幾多ノ歲月ヲ無益ニ消費スルノミナラス運送及ヒ其他ノ點ニ於テ非常ノ困難ヲ感シ又巨額ノ失費ヲ要ス其結果遂ニ装甲艦ハ擧テ之ヲ外國ニ注文セザルヘカラサルニ至ルヘシ之ヲ要スルニ軍艦ヲ外國ニ於テ製造センカ有事ノ際ハ之ヲ本邦ニ廻航スル能ハス又之ヲ内

國ニ於テ製造センカ有事ニ際シ主要材料タル甲鐵板ヲ輸入スルコト能ハスシテ製造ノ目的ヲ達シ得サルニ至ラム豈是レ我國兵器ノ獨立ヲ全クシ軍備ヲ完成ヲ期スルノ道ナランヤ今ヤ筑前國若松港ニ製鐵所ノ設置アリト雖モ現計畫ノ事業順序ニ依レハ軍艦製造ニ要スル甲鐵板及ヒ砲筒用鋼板ヲ製造スヘキ計畫未タ立タス僅カニ厚サ五尹ニ達スル普通鋼板ヲ製造スヘキ目的ニ止マルモノナリ然ルニ軍艦製造用ニ供スルモノハ厚サ五尹以上十四尹ノ甲鐵板ヲ要スルノミナラス其製造上ニ於テモ普通鋼板ト著シク異ナルヲ以テ之カ供給ヲ該製造所ニ得ルノ餘地ナシ我海軍ニ在テハ既ニ是

等甲鐵板ヲ製出し得ヘキ特殊ノ技能ヲ有スル
技術者アリテ之ヲ製造上ノ技術ニ於テ困難ナ
ク又專賣權ヲ購入セスシテ之ヲ製出スルコト
敢テ難シトセス殊ニ製造ニ要スル原料ノ如キ
ハ專ラ中國産鐵及ヒ製鐵所製鐵ヲ使用スル見
込ナルヲ以テ外國品ヲ仰クハ僅カニ十分ノ一
ニ過キス若シ又赤谷山ノ鑛石ヨリ製出シタル
鉄鐵ニシテ其質スウエーデン鉄鐵ニ匹敵スル
ヲ得ハ原料ハ統テ内國産ノミヲ使用シ得ヘキ
見込ニシテ隨テ外國品ヲ仰グノ必要ナシト雖
モ帝ニ之ニ要スル工場及機械ノ設備ナキヲ以
テ製作シ能ハサルハ誠ニ一大缺陷トス故ニ毎
年四千噸ノ甲鐵板及砲筒用銅板ヲ製作スルノ

見込ヲ以テ茲ニ計畫ヲ為スニ吳海軍造兵廠現
在ノ諸機械ヲ合併利用スルモノトシ尚別紙ノ
通器械費概算五百六拾萬七千円建築費概算六
拾八萬貳千八百八拾九円三拾九錢八厘ヲ要ス
此製造所ニシテ建設セラル、ニ至ラハ爾後軍
艦兵器ノ製造用諸材料ハ總テ之ヲ外國ニ仰カ
スシテ内地ニ於テ製作シ得ヘシ之ヲ製造價格
ニ關シテハ未タ精算ヲ示ス能ハサルモ外國ヨ
リ之ヲ購買スルモノニ比スレハ總テノ經費ヲ
本邦内ニ撒布スルモノナルカ故ニ國家經濟上
ヨリ云フモ國益ヲ増進スルヤ今更論スルヲ要
セス況ニヤ兵器獨立ノ基礎確定スルニ於テ才
十

海軍ニ於テ甲鐵板製造所建設ノ必要ヲ感スル
コト斯ノ如シ該事業ハ實ニ海軍既定計畫事業
ヲシテ克ク完璧タラシムルニ於テ必要欵ク可
カラサルモノナレハ新事業ノ企畫トハ趣ヲ異
ニシ全ク既定計畫ニ關聯スルモノナリ若シ果
シテ財政上ノ狀況ニ於テ直ニ此支出ニ應スル
コト能ハストセハ擴張費中他ノ費途ヲ減殺ス
ルトモ軍備ノ必要上之カ經始ヲ他日ニ稽延ス
ルコトヲ得サルヲ以テ初ノ海軍者ニ在テハ三
ケ年ノ継続事業トシ計畫シタルモ已ムナク之
ヲ五ケ年トシ且初年度ニ於テ要スル金額百八
拾六萬餘円ハ擴張費ヨリ移用支弁シ其殘額四
百四拾貳萬五千餘円ヲ三十五年度以降ニ於テ

之カ支出ヲ要求スルコトトシ來年度ヨリ斯業
ノ經營ニ着手セントス本事業ノ費目及支出年
度割ニ至テハ更ニ大藏大臣ト協議シ豫算案ニ
編入スヘシ

吳造兵廠煙滓部器械其他器械費

卷

概算額

内譯

項目	概算額	支	出	年	度
煙滓部器械	一四四、〇〇〇、〇〇〇	一四四、〇〇〇、〇〇〇			
電氣部器械	一三八、〇〇〇、〇〇〇	一三八、〇〇〇、〇〇〇			
輾壓部器械	五五、〇〇〇、〇〇〇		五五、〇〇〇、〇〇〇		
機工部器械	一〇、〇〇〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇、〇〇〇		
運搬並保險料	一、九二五、〇〇〇		一、九二五、〇〇〇		
据付費	一四、二七五、〇〇〇		一四、二七五、〇〇〇		
合計	三六二、二〇〇、〇〇〇	三六二、二〇〇、〇〇〇			

吳造兵廠輓壓工場其他建築費

建築費

內譯

概算額

支 出 年 度
三十四年度支出額 三十五年度支出額

備

考

輓壓工場	八二、五七九三	五五、〇五二九三	二七、五二六〇
發電工場	一六、三八七五	一、三八七五	五、〇〇〇〇
材料庫	五二、五〇〇〇	二五、〇〇〇〇	二七、五〇〇〇
貯水池	五二、一七三〇	三二、七八二〇	一九、三九一〇
鐵管購入及布設	一一、〇三二五	一〇、〇〇〇〇	二、〇三二五
煙滓工場	一五、六九五〇	八、〇〇〇〇	七、六九五〇
機械工場	一三八、八六一五	七、〇〇〇〇	六八、八六一五
事務所及附屬家	五六、〇〇〇		五六、〇〇〇
製圖工場	一三、九四九六		一三、九四九六

總理大臣

下五

十七

官房機密第三九五號

内閣書記官長

内閣書記官

海軍第三期擴張費ニ屬スル甲
 甲鐵戰艦二隻ノ製造期限
 海軍第三期擴張費ニ屬スル甲
 鐵戰艦製造ノ儀、本年度ヲ着
 手ニシテ、三年度ニ至リテ、建造
 スル、經費ニ有之、然レ、時局ニ
 於テ、右甲鐵戰艦ノ建造、可成速ニ
 了スル、必要ヲ認ムル、之ヲ得來
 東洋ノ平和ヲ維持スル上、予觀ルニ
 時局ノ解決如何ニ拘ル、海軍、

同附屬便所及廊下	二五八七五。		二五八七五。
鐵道	五〇〇〇〇〇。		五〇〇〇〇〇。
發射場係餅 <small>(長三十三尺 高二十四尺)</small>	一〇〇〇〇〇。	一〇〇〇〇〇。	
砲材鑄造工場建増	八九五九六五。		八九五九六五。
作場費	二〇〇〇〇〇。	六〇〇〇〇。	一四〇〇〇〇。